

令和7年度

王地小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 互いの意見を認め合い、自らの考えを深められる授業の実践
- 学んだことを進んで表現し、活用できる授業の実践

校長

喜多 佳英

学力向上推進員

湯浅 和奏

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

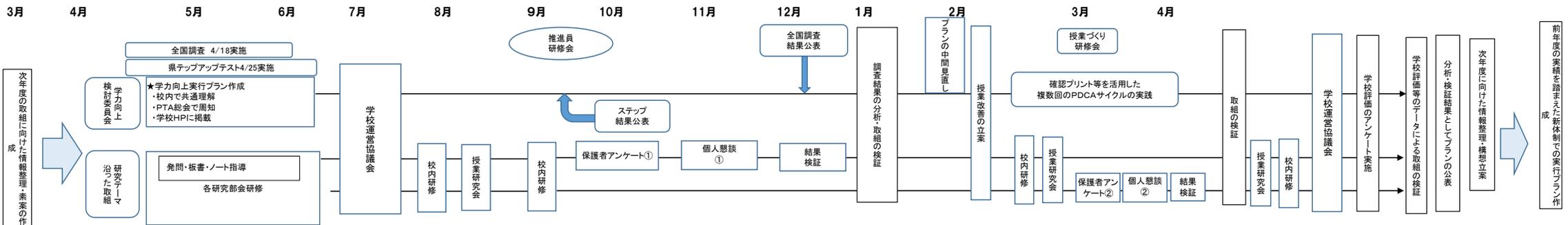
児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○基礎的な知識や技能が身につけられており、課題にまじめに取り組む児童が多い。読書や読み聞かせに好んで取り組むことができている。タブレット端末を活用したドリル学習には意欲的に取り組んでいる。 ●学習した漢字や語彙を用いて文章を書いたり、書かれている内容を正しく読み取ったりすることに課題がある。学習したことを、活用する力が十分育っていない。 ●めあてとまとめが関連付けられていない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した基礎的・基本的な知識・技能を他の学習場面で活用することができる。 ・語彙を豊かにし、相手を意識した話し方や聞き方が、学年に応じてできる。 ・学習のめあてとまとめをノートに記録し、学びを確かめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた課題等を用意したタイプの違う問題等に触れさせる。(タブレット端末の有効活用) ・内容の理解を進めるため、課題文等に線や丸を書き入れさせる。 ・めあてとまとめを関連付け、学習の振り返りが容易になる板書やノート指導を工夫したり、振り返りをパターン化したりする。 ・言語環境を充実させるために子ども新聞を読み取り等に利用したり、新聞や様々な分野の本に触れられるように単元に関連付けた本を教室においたりなど環境を整える。 ・異学年交流や集会活動の際に聞き手を意識して話したり、聞いた感想を書いたり話したりする活動の機会を設ける。 ・複式の学年が下学年を教えたり下学年が見習ったりするよさを活かした学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくタイムや行事の後等、活動の振り返りをする。 ・読書量が少ないため、雨の日や図書サポーターが来る日は、図書室へ行くよう声かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末でのドリル教材を使って、個に応じた問題に触れることができた。 ・児童自身によるめあてやまとめ等はまだまだ十分でない。教科により取り組みの格差がある。 ・読書量が少なく、文章題や長文を読むことが苦手意識があった。 ・わくわくタイムや行事の後には、各学年に応じた感想を持ち、話すことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どの教科でも統一してめあてとまとめ、振り返りを充実させる。 ・学習の際に、全体での振り返りの場を増やす。 ・読書量を増やすために、屋読やファミ読の時間を設ける。また、継続して雨の日や図書サポーターが来る日に、図書室へ行くよう声かけをする。 ・共通の題材でスピーチをする等、話したり聞いたりする機会を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えや意見を発表したり、友達や教師の話や意見を聞いたりすることができる児童が多い。 ●根拠を明らかにして自分の考えを述べたり、書いたりすることが苦手な児童が多い。聞いたり読んだりした中から必要な情報を取捨選択する力が十分育っていない。また、相手の意図を正しく理解しながら「聞く」ことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を、根拠や理由を明確にして話したり書いたりできる。 ・相手の意図を考えながら話を聞き、それに対する自分の意見や考えを述べるができる。 ・様々な形態の文章を読み、必要な情報を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の学習や生活において、根拠や理由を述べたり書いたりする場面を積極的に取り入れるとともに個に応じた支援を図る。 ・「聞き方名人」「話型」等の話を聞く姿勢や態度、発表の仕方や記述の型を提示する。 ・基礎学習にメモを取る機会や聴写を取り入れる。 ・自分の考えを整理して伝えるために、ホワイトボードやICT機器等を効果的に取り入れると共に話したり書いたりする機会を設け、表現力の育成を図る。 ・新聞や長文等に触れる機会を意図的に設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞く姿勢や態度、発表の仕方や記述の型は異学年交流での学年の姿から学ぶ機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数での話し合いはできるようになっている。しかし、全体に広げる段階になると、自信がなくなり深まりきらないことがあった。 ・メモをとる際に、短く簡潔にまとめられていないことが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体でも自信をもって話せるよう、話し合いの機会を増やす。 ・聴写の機会を増やせるよう、朝会での話を要約する等アウトプットする機会を設ける。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> ○落ち着いた学習に取り組む、宿題や与えられた課題にまじめに取り組む児童が多い。 ●自分から課題を見つけ、解決に向け取り組むことに課題があり、根気強く取り組むことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から考え、進んで学習したり活動したりすることができる。 ・自分に応じた学習課題を見つけ、根気強く取り組むことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・複式学級での学習や「めあて」から「まとめ」までの学習課程をパターン化し、児童が主体的に学習に取り組めるようにする。 ・めあてに対する振り返りの時間を確保し、自分の課題を自覚したり次への意欲をもたせたりする。 ・子どもたちが主体的に学び、自らのゴールに到達できるようICT環境や辞書・辞典などの学習支援ツールを充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを一言でも書く習慣をつくり、単元の終わりに文章にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴールを明確に示したり、ヒントを小出しにしたりすることで、集中力を保ちながら主体的に学ぶ姿が増えた。しかし、興味の薄い学習では集中力がぎれてしまうことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が興味をもって学習したくなるよう授業改善する。



前年度の実績を踏まえた新体制での実行プラン作成